

KSK 湘南ふくしネットワーク オンブズマン(新聞) 広報58号

編集責任者：NPO法人 湘南ふくしネットワークオンブズマン 相川 裕
事務所：〒253-0043 神奈川県茅ヶ崎市元町5-22 永井ビル3階
電話・FAX：0467-85-6660 直通電話090-4937-4904 定価30円
ホームページ：http://www.npo-snet.com eメール：info@npo-snet.com



2019年秋の台風15号・19号では、屋根が吹き飛ばされたり、大小さまざまな河川が氾濫するなど、多くの方が大きな風水害に見舞われました。亡くなった方々のご冥福と、被災された方々が一日も早く元の生活に戻ることができるよう、心よりお祈り申し上げます。

3年目に入った「エンパワ・サロン」の最新情報です！当法人では知的・発達・精神障がいといった、外から見てもよくわからない障がいのある人たちを対象に、月1回1時間半のアットホームなサロンを開催しています。障がいのある人といつとも「支援者」の立場のスタッフが、テーブルを囲んで対等な立場で一緒におしゃべりを楽しまします。新しい1年もたくさんの参加者をお待ちしています！

■ お気軽にご参加ください！ ■

●外から見てもわからないハンディをお持ちの当事者の方へ●

エンパワ・サロンへのおさそい

皆さんで集まって、日頃思っている色々なことをお話してみませんか？

●趣味 ●仕事 ●健康 ●将来のこと ●恋愛その他、なんでもOKです！
お茶とお菓子を用意してお待ちしています。



こうひょうかいさいちゅう

好評開催中です！ スタッフも参加します。

※人数を知りたいので、ご参加の場合は電話のご連絡をお願いします。

- 日にち：1月18日(土) 午後2時30分～4時00分
- 場所：NPO法人 湘南ふくしネットワークオンブズマン事務所
(JR茅ヶ崎駅北口より徒歩5分くらい、電話0467-85-6660)
- お茶・お菓子代：100円
- 主催：NPO法人湘南ふくしネットワークオンブズマン



●連絡先：090-8478-1925 上杉



「翔の会との協働会議」報告

特定非営利活動法人湘南ふくしネットワークオンブズマン(以下「S ネット」)では、糾弾型ではなく、協働型のオンブズマン活動を行っています。

そこで、半期に一度、契約施設のある社会福祉法人翔の会の施設長や幹部の方たちと、「協働会議」を開き、日頃のオンブズマン活動のまとめや、月に一度開いているオンブズマン会議で話合っている内容などお知らせし、課題や権利擁護についての意識の共有化を図っています。

今回は、9月21日(土)に開かれた「2019年度第1回 翔の会とS ネットの協働会議」の概要をご報告させていただきます。



1. 担当オンブズマン・施設長からの報告 (オ：オンブズマン、施：施設長)

湘南鬼瓦・味噌蔵・STUDIO UZU(生活介護通所施設)

オ：今年度は面談室で待つのではなく、活動場所に伺って利用者に会い、スタッフから支援内容の説明を受けるようにした。利用者の一人ひとりが見え、細かな支援も見えてきた。昨年、丁寧な支援が自立の妨げにならないかと問いかけていたが、「自分でできる事は自分でやらせよう」という支援者の姿勢も見られた。

施：利用者の多くが障がい重い方々なので、グループに入って見られている。自立課題についての指摘も新入利用者の活動の手掛かりとなっている。其々に合った本人の力が発揮できる活動をと助言をいただいて、一歩進められた。味噌蔵では、不安が強い人がオンブズマンを信頼して話している。UZUでも話す機会を作るのは大事だと思っている。

ブルーベリー(生活介護通所施設)

オ：面談希望者が多いので手分けをして面談している。昼食を共にしたことで、面談に見えない利用者に出会う事ができた。ブルーベリーのお祭りに参加したことで「お祭りで役割を持ちたくない」と言っていた方が、嬉々として焼き鳥を焼いている姿を見て、訴えを全部聴いてしまうのも必ずしも本人の本意に添う事ではないと分かった。

施：話ができるがオンブズマン面談に踏み出せない人に、昼食で世間話から始めて広げて頂いている。スタッフには言いづらいこともオンブズマンに打ち明けているようなので今後もお願いしたい。夏祭りで親御さんとも会ってということもあった。

グリーングラス(生活介護通所施設)

オ：ほとんどの利用者が自閉症の人達で、それぞれコミュニケーションの形を持っていて、その形でしかできなかったが、5年6年かけて変化が見られ、コミュニケーションの幅が広がったと感じている。家や街で人と話ができるようになることを願って、変化を見ている。

施：面談のメンバーが固定されているが、許容できて安心できる空間がある。オンブズマンとのやり取りから、こういう対応もアリなのかと気付かされる。その気付きが次の変化の時の対応に柔軟性を持てるという事につながっている。

入道雲(知的障がい者入所施設)

オ：Iさんの最期の様子で「仲間が持つ力」に感動した。知的障がいの施設での看取りの問題や高齢障がい者への対応などこれから力を付けられるのではと期待している。

夏祭りに参加して、利用者を楽しませる工夫をたくさん見せていただいた。楽しませようと頑張る職員、一緒に楽しむ職員、担当の利用者を見ているだけでいっぱい楽しんで職員も見かけた。

施：実際には病院で亡くなったが、一時退院をした時の「仲間に会えて嬉しい」という姿に職員達も受け入れ態勢を考える事ができた。

お祭りのプロジェクトチームを作って企画している。職員間で温度差が出てしまっているかもしれない。乗れないスタッフも巻き込んで一致団結してできるようにしていきたい。



水平線(身体障がい者入所施設)

オ：ボランティアが欲しいという相談がある。水平線の近くの地域の人に声を掛けているが、どのようにしたら入れるか。市民活動サポートセンターのホームページにどのような条件でどのような活動にボランティアが欲しいのか書き込むと大勢の人に読んでもらえる。

施：本人の会「フレンド会」が自分たちでボランティア募集のチラシを作り、先日大学に置きに行ってきたが、まだ反応はない。継続性のあるボランティアに来ていただきたい。「職員に『心の底まで分かってほしい』という訴えに傾聴に傾聴を重ねた上で「50年も一緒に居る夫でも分からないのに職員に分かってと言うのは無理なのでは」と言われた言葉が響いたのでは。

ちがさきの木魂(生活介護通所施設)

オ：食事の時間を一緒にしている席でスタッフの話も面白い。利用者間で不良障がい者と優良障がい者という話や男同士のギャンブル話で盛り上がり、優良障がい者と呼ばれた方からの社会に向けてのコメントがあり、伺った話を色々な場で伝えている。オンブズマンに話すことを練習台に、困ったことを周りに「支援を求めろ力」ができるとうい。

施：オンブズマンが来ることで話す機会ができて良い。

商業施設のトイレの問題。車いす利用で映画館が不具合。タクシーの運転手に車いすの扱いを知ってもらいたいという意見があり、理解を広げていきたい。

ゆるり(特別養護老人ホーム)

オ：ショートステイの方は元気。入所の方達が入所当時はお元気だった方も年をとられて寝たきりのような状態になり様子が変わってきている。

全く面談拒否だった人と看護師の仲介で初めて面談でき帰りには握手を

交わす事ができて、嬉しかった。いつも否定的な話をされていた方に出身地を伺い故郷の話をしたら会話が弾みなごんだ。同じ出身の方のグループという事も良いのではないかと。

施：車いすの方が多い。離床しやすいベッドを入れている。日中活動の充実が各ユニットの課題になっている。体操クラブ、朝のカラオケなどイベントは参加できる方もいるが乗らない方もいる。無理して参加を促していない。

転倒事故が減らず目が離せない。自分で歩けるという意識がある人に介助に間に合わない。能力の衰えと本人の自覚との差がある。

**Café & PC グランマ(就労支援通所施設)**

S：毎回2名ずつ時間をかけ丁寧な聞き取りをしている。相談は仕事の内容と、接遇する職員の態度に対する思い、家族に対する悩みも大きい。深い悩みを持っている人が何人かいていろいろな方面からの支援が必要だということが分かり、施設長に伝えている。

施：グランマは就労の場なので職員の言葉がきつくなることもあるが、指摘をいただき言葉が適切であるか、感情的になっていないか職員間で話し合っている。一人1時間たっぷり丁寧に話を聞いていただき満足そう。複雑な家族関係についても丁寧に聞きとっていただいている。

2. 全体での課題の共有

- ・「女子日」をキーワードに、女性への対応について伺いました。通所施設では家族と連携して不調に対応しているが、女性への支援をどうとらえるか今後話し合っていくとのことでした。
- ・笑顔で入職した人が笑顔で仕事が続けられるようにするための対策について伺いました。表情の陰りを見つけたら面談するようにしている。横のつながりが大事という事でグループワークをするなど仲間づくりをしている。1日自分のやりたい事を何をしてよい日を設け、厨房に入ったり、法人の内外を問わず他の施設の見学など、やりたいことを実現できるようにしている。研修に力を入れ、経験年数などに応じて様々な研修を組んでいるとのことでした。
- ・地域の中での施設の役割について、地域貢献という事や、持っている専門性を地域に広めたり、施設を市民活動の場として提供する等、地域とつながっていくという話し合いになりました。



神奈川県オンブズマンネットワーク交流研修会

神奈川県知的障害福祉協会人権委員会と県知的障害施設連合会主催で、ネットワーク型福祉オンブズマンの9組織と第三者委員を組織する川崎市障害福祉施設事業協会が共催する「神奈川県オンブズマンネットワーク交流研修会」に、Sネットからはオンブズマン4名、施設職員6名が参加しました。

人権委員会委員長上田理さんより、今年、障害者権利条約に合わせて改訂版を発行した「あおぞらプランⅢ（『あおぞら宣言』：知的障がい施設利用者権利宣言）、（『あおぞらまもろう宣言』：知的障がい者権利擁護宣言）、（『あおぞら計画』：行動計画）」の内容や、歴史的経緯などの説明がありました。



また、昨年に引き続いて和泉短期大学教授鈴木敏彦さんによる「合理的配慮と意思決定支援」の講義があり、第2部では100名余りの参加者が12グループに分かれて3つの事例について意見交換を行いました。

グループにはオンブズマン、第三者委員、一般職員、オンブズマン協力員、管理職、施設長など色々な立場の方がおられ、日頃の経験を通した様々なエピソードやご意見を伺う事ができました。

グループにはオンブズマン、第三者委員、

“フィエスタ翔”に参加しました。

朝は少し曇っていましたが、秋晴れの良いお天気となった11月9日(土)に、茅ヶ崎中央公園で行われた社会福祉法人翔の会が主催する「フィエスタ翔」に、Sネットはテントをお借りして「相談ブース」を設け、参加しました。成年後見に関する相談を2件、権利擁護や、進路についての相談を2件、お受けしました。



当日は、当法人の成年後見支援センターの講演会「安心への想いをつなごう！～成年後見支援制度と家族信託を学ぶ～」と日程が重なってしまったため、成年後見支援センターの担当者は午前中の参加でしたが、引き続き午後参加したオンブズマンは、来場された利用者の方々やご家族とお話したり、様子を拝見しながら、模擬店や福祉機器展示紹介コーナー、パラスポーツ体験など楽しみました。

賛助会員 入会のお願い

私たちは、ノーマライゼーション社会の実現を目指し、権利擁護活動を行っています。賛助会員としてご入会いただき、私たちの活動をご支援くださいますようお願い申し上げます。

- ◇賛助会員 会費
 - ・個人 年額 一〇 1,000円 (一〇以上)
 - ・法人 年額 一〇 5,000円 (一〇以上)

◇ご入会の方法：郵便振替書により下記口座へ会費をお振込みください

郵便振替口座番号：00210-9-75496

口座名義人：NPO法人 Sネットオンブズマン

